

#ゼミを語ろう

●早稲田大学法学部 水島朝穂ゼミ(憲法)

社会問題の根底を憲法から探る、 自由闊達な言論空間水島朝穂ゼミ!

活動内容

水島ゼミでは「憲法の動態的研究」をモットーに、憲法を取り巻くさまざまな社会問題について、事件の時代背景や社会的背景、訴訟過程などにも分け入り、いわば憲法の法社会学的側面まで踏み込んだ検討をしています。

3・4年生の2年間、通年で所属し、毎週木曜日の4・5限に活動しています。ゼミ生は半期に2回、興味のある発表班に所属してそれぞれのテーマを追求します。発表時間は平均2時間半で、ゼミ生全員での議論を多く取り入れた形式をとっています。その後、先生からの30分のフィードバックにより、毎週のゼミを締めくくります。

所属する2年間で計10回の発表(2回の夏合宿含む)を担当し、そのうち1回は必ず「班長」を経験します。これにより全ゼミ生が平等にリーダーを経験できる仕組みとなっています。

こうしたゼミの特徴は、現場の声を聞く「取材」に力を入れている点にあります。各発表で平均3か所での取材を通じて、問題の当事者や専門家などの「生の声」を聞くことで、テーマを多角的に考察できるようにしています。取材依頼からすべて自分たちで行い、実践を繰り返すことで一人前を目指します。このようにゼミ生が主体的に活動し、学びを深めています。

ゼミの行事

このゼミでは、上記の普段の活動のほか、年間を通じて様々な行事を開催しています。ゼミ終了後の飲み会や学期末の納会においては、発

表班の問題意識について議論が再燃することもしばしばです。ここでは、数ある行事のうち、①夏合宿、②おでん会について紹介します。

①夏合宿

水島ゼミでは毎年夏合宿を実施していますが、隔年で沖縄に行くことが決まっています。前は米軍基地班・地域経済振興班・平和教育班・北部環境問題班に分かれ、5月頃から断続的に取材計画を練ってきました。

2018年合宿は、突然沖縄県知事選挙が行なわれることになり、取材を断られて活動が困難になる班や、大幅に予定変更を余儀なくされる班もでてきました。しかし、どんなに忙しくても「学生には話したい」と取材を受け入れて下さる方もおり、各班は選挙下の沖縄という非日常を体感することができました。

そのほかにも実際に辺野古を訪れるなど、沖縄のみならず日本の安全保障、環境問題の現場をしっかりと目に焼き付けてきた班もあります。

合宿中には琉球大学の憲法ゼミとの合同ゼミを実施し、東京の学生と沖縄の学生が対面して基地問題等を真剣に話し合う有意義な機会となりました。

②おでん会

正月休み、卒業間近の4年生が先生の八ヶ岳の仕事場に招かれ、おでんが振る舞われます。「信玄棒道」を歩きながらの先生との語らいも、思い出となる貴重な時間です。

各行事を通じ、互いに刺激し合いながら個々の思索を深めることができる、意義深いゼミです。

#ゼミ生はどんな人？

個人的に、好奇心の強い人が多い印象です。勉強に励む者からサークルに熱中する者、思うままに海外に渡航する者……。自分の関心のあることに全力投球の人が多いです。

学生は様々な地方から集い、そして、多彩な趣味や専門・得意分野を持っています。1つのテーマを扱っても様々な視点からの発言が溢れ、討論は毎回大変な活況を呈します。高い問題意識を持った好奇心の強い学生が集まるので、ゼミ後の食事の場で討論が白熱することもしばしばです(笑)。

こうした雰囲気は、まさにゼミで培った「現場主義」で染みついた実行力から来ているのかなと思います。自身が興味あるものを深める、このあくなき知的好奇心こそが水島ゼミを支えているのだと思います。そしてそれゆえ、卒業したゼミ生の進路先は、裁判官・検事・弁護士から、国家・地方公務員、新聞・放送など各種メディア、大学・高校教員、金融、商社、メーカー、運輸、国際協力、農業経営まで、多種多様な分野に進出しています。

#後輩(読者)へ向けて

ゼミナールとは、ラテン語の「苗床」を語源としています。先生曰く、水島ゼミは「ゼミ生という種子を育てる苗床。私はその管理人にす

ぎない」とのこと。ゼミ生はそこで日々、新たな問題に対して議論を通じ知見を深めていきます。幸い、水島ゼミには24年の歳月をかけて育まれた豊かな土壌があります。自分という「種子」を育てるにはこれ以上ない環境です。あなたの問題意識を「青臭い」と笑うようなことはありません。あなたの好奇心と探求心を、水島ゼミは歓迎します。私たちと、ともに学びともに考えましょう。

ゼミに入れば1度以上、班長を経験することになります。班長は、自分の問題意識を、班員らとともに調査・取材して準備を整え、そして集めた情報から、論点を再構築しゼミで改めて問題提起をします。議論では、色々な立場からの意見がでてきます。今まで見えていなかった新たな一面に気づかされるといったことも少なくありません。

そうして完成した発表は、自身の大きな財産になるでしょう。発表に向けられる熱い情熱と個性的なゼミ生が織りなす多様な議論こそが、水島ゼミの持ち味です。

1つの分野にとらわれず、様々な問題に挑みます。飽くなき好奇心と探求心のある学生の皆さんをお待ちしております。なお、先生のホームページ(<http://www.asaho.com/>)のサイト内検索で「水島ゼミ」と入力すると、先輩たちの多彩な活動をみるができます。(文責：高瀬将吾)



ゼミメンバー

23期

鈴木育海
新村雄己
伊藤翔和
井内翔太郎
根本 圭
榎戸さくら
高瀬将吾
宮崎爽太
マハール有仁洲
山崎彩夏
高野拓巳
加藤大成
小幡藍子
野村修史
小澤拓末

24期

西山明紀子
池浦香織
島原寿伸
伊藤さつき
中川龍馬
江崎誠人
瑞慶山佳苗
内田桃子
伊藤大輝
岡崎啓佑
他4名

記事掲載のご希望と
お問い合わせは
編集部 e-mail アドレス
housemi@nippon.co.jpまで